

平成 16 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 最終処分場の廃止に向けた安定度判定に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>最低限のターゲットはどこに置くかを明確にした方がいい。数多くのデータが得られ、また得られる予定であり、十分時間をかけた解析が望まれる。いくつかの測定方法も検討しているとのことであり、こちらも期待したい。</p> <p>社会的に非常に重要な課題だと思います。研究の年度が終了した後も、何らかの形で課題を設定して研究を続けて欲しいと思います。</p> <p>着実にデータが得られていることは評価したい。発表の中で、いろいろな仮説の紹介があったが、データ自身も重要だが、仮説を確かめ研究成果に繋げて欲しい。</p> <p>国立環境研究所との共同研究は、いろいろな面で苦労もあるかと思いますが、密に連絡をとるなどしてうまく進めていただくようお願いしたい。</p>	<p>廃止基準には、浸出液の水質基準値が定められているものの、採取時期や採取方法が具体的に示されていません。今回、廃止基準に応じた適切な試料採取法の提案を最低限のターゲットと考えています。今後、議論を重ね、浸出液、発生ガス、埋立廃棄物等の安定化指標の解析に十分時間をかけたいと思います。</p> <p>ご指摘に添えるよう、共同研究の継続を含め、課題を設定し、研究を続けることを検討します。</p> <p>共同研究の中で電気探査を行いますので、埋立廃棄物層中の保有水の存在が確認されると思います。今後、研究成果を発展させるためにも仮説の確認を検討したいと考えています。</p> <p>共同研究先の国立環境研究所・廃棄物研究センター・最終処分技術開発研究室を中心に埼玉県、千葉県及び関東圏の処分場研究者が集まり、密にお互いの情報交換を進めています。</p>

平成 16 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 最終処分場の廃止に向けた安定度判定に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>それぞれ状況の異なる現地での調査のため、統一的知見を導くことは容易でないと思いますが、これまでに興味深いデータが得られていると思います。新たに行うボーリング調査の結果をうまく活用して、「安定度判定」のための調査手法に新たな方向性が示されるよう期待します。</p> <p>現場からしか得られない貴重なデータが集積されている。17 年度予定のボーリング調査、国環研との共同研究を通じ、一定の方向性が見出せることを期待します。</p> <p>多数のフィールドデータを実際の処分場で積み上げてきた意義は大きい。これをまとめて総論へ導いて欲しい。</p> <p>現場での精密な測定と簡便な測定を平行して実施し、幅のあるなかでの簡便法の有用性を示せればとも考える。</p>	<p>ボーリング調査では、埋立廃棄物の活性度等から埋立廃棄物自身の安定度を調べ、今まで収集してきた浸出液とガスのデータに繋げたいと考えています。また、ボーリング後に観測井を設置し、廃棄物層の温度を連続自動測定する予定です。そこでは、降水時における廃棄物層の温度変化に注目し、安定化をみていきたいと考えています。</p> <p>ボーリング調査では、埋立廃棄物を掘削採取します。調査対象処分場の主な埋立物は廃プラスチック類であるため、当センターは掘削廃棄物に含まれるプラスチック添加剤の溶出状況を、国環研は掘削廃棄物の活性度を調べ、併せて埋立廃棄物自身の安定度をみようと考えています。</p> <p>現在、データを収集している段階ですが、今後議論を重ねてデータ解析を進め、幅のある結論を出したいと考えています。</p> <p>現場での簡便法に関しては、安定化の指標のひとつとして、メタンを取り上げ、現場で一定期間に排出されるメタン量の測定方法を検討しようと考えています。</p>